

さわがせ

号数 第 3 5 2 号
発行日 令和 7 年 10 月 26 日
発行所 金光教 靱 教会
〒 550-0011
大阪市西区阿波座 2-2-10
TEL&FAX 06(6541) 6313
mail: utubo1905@gmail.com



秋の合同墓前祭が瓜破霊園において執り行われました (9月28日)

ここからの教会の役目

教会長 鍵山公生

御本部広前において9月29日、10月5日、10日の3回に渡り、教主金光様ご祭主の元、生神金光大神大祭が仕えられ、その金光様の御比礼をいただき、本日靱教会布教121年目の生神金光大神大祭をお迎えさせていただきますことは真にありがたいことでございます。

生神金光大神大祭 (この項は生神金光大神大祭案内より一部抜粋)

生神金光大神大祭は、明治16年(1883)10月10日に現身の御用を終えられた教祖様のお徳を称え、教祖様が現して下さった永世生き通しの生神金光大神取次ぎを改めて頂き、私たちもその働きを現していくことを祈願する祭典です。

教祖様は川手家に養子として入られ、家業である農業を実意丁寧な勤められ、一家の繁栄を常に願っておられました。また、幼いころから神仏に対する信心を



心のよりどころと大切にされていました。

当時、人々は「金神」（こんじん）という祟りや障りをもたらす神様のことを恐れ、日柄方位を見て避けるという習慣があったため、教祖様も、とせ様とのご結婚に際しては、良い日柄と方角を選び、婚儀が執り行われました。しかし、次々とご家族を亡くされるという不幸の中で、嘉永3（1850）年に普請を行なわれる際には、家の中に金神様をお祀りされるようになりました。それでもなお不幸は続き、2頭の飼い牛を亡くして7墓を築かれるに至りました。そして、安政2（1855）年42歳の時にはご自身が九死に一生という大病を患う難儀に遭われました。この時、義弟に神がかりがあり、神様の思いを知らず無礼をしていたこと、人間の計らいには限りがあることを知らされ、心を改められました。そして、神様と人間が共に助かる道を歩み出されることとなったのです。

安政4年から教祖様に神様からお頼みを受けるようになり、「金乃神下葉の氏子」という名称を頂かれ、この頃から、難儀を抱えた人が次々と教祖様の元に訪れるようになり、安政6年10月には農業を差し止められ、家族に農作業を任せ、御取次に専念されることになったのです。教え導くという取次のご用を通して、人助けをされるようになられたのです。

もっと有効利用しませんか

さて全く話は変わりますが、最近不動産業者から手紙や電話、あるいは直接訪ねて来られ、「教会の敷地を売却しないか」とか「もっと有効利用して利益の得る方法があるので話を聞いてほしい」と言ってくるのです。

当方ではそのような考えは全くないと断っても、度々訪ねてくるのです。

業者にとっては親切心から言っているのではなく、自社経営発展のために勧めているのですが、しかし、時には教会の様子を伺って「信者が参って来るんですか！」と切り出すのです。

そんな言葉を聞くと、「ほっといてくれ！。おおきにはばかりさん！」（余計なことをいわないで）と大阪弁で冗談も言いたくもなります。業者が考えている事と、当方との考えが根本的に違うので話になりません。

教会の本来の務め・目的は

金光教の教会は何をすることでということ改めて考えてみますと、例えば健康のこと、商売のこと、出産のこと、学業のこと、交通安全のこと、その他色々な災難に出会った人が、日柄、方角、その他の迷信に迷うことなく正しい生き方を教え導き、幸せな生活を営めるよう祈願されているのです。



そのように教会というところは、財産を増やすことを目的にしているのではなく、教会家族が楽な生活をするために活動しているのでもありません。

金光教靱教会広前の変遷

当靱教会は信奉者の皆様もよくご存じのように、初代教会長・和田安兵衛先生が若いときから鬱病や、労咳（肺病）に罹り、九死一生のところを金光教の道にご縁をいただき、大阪教会初代白神先生の御取り次ぎを仰ぎ、有り難いみ教えをいただき、命を救われ、後にはお道の先生にお取り立ていただき、靱教会を開設されたのでした。そこへ参拝される方が次々に増えて来たのです。最初教会の広前は土地も建物も小さな借地、借家からぼちぼちと広い家になり、おかげをいただいて来ました。そのうちに借家も持ち主の都合により買うことになりました。そのためには初代先生、2代先生のご苦勞は並大抵ではなかったと思われませんが、やがて無事支払うことができたのです。ところがあの太平洋戦争の空襲により広前は全焼してしまいました。

戦後、広前があった周辺が米軍の簡易飛行場になったため、元の場所に戻ることができず、広前の再布教の場所を求め、明治幼稚園の跡地を求めることになったのです。とは言っても公共の土地は気安く売却の許可が下りず、親神様に祈り、信奉者や町内役員たちの並々ならぬ努力によって取得することができたのでした。

その土地の広さは最初5百坪近くあったそうですが、大阪市の土地計画で持ち土地の3分の1を無償提供と決まり、その上、教会前の道路拡張のため2分ほど削られ、その結果最初に求めた土地の半分に縮小されたのでした。



ご大祭を迎えるにあたり、2階和室のふすま 34 枚を、教会長先生の指示のもと、張り替えました。（9月下旬）

2代教会長和田こゆみ先生は戦後の物資不足の中でその地を耕し、作物を作りつつ自給自足しながら生活をし、御広前では厳しい生活を営む氏子の難儀を救い助け、金光様のみ教えに基づき、氏子に質素儉約を元にしてお導きされたのでした。

戦後辛うじて復興された広前が、関西地方を襲ったジェーン台風により打ち碎かれ、その後すぐ広前の建築に取り組み、昭和25年に広前新築、その5年後に神殿増築。更に昭和60年（靱布教80年）には現在の広前を新築落成をされ、平成15年には信徒会館が増築されるなどして、何十年もの年月をかけて充実した施設が出来てきたことは何よりありがたいことです。

ここからの教会の願い

ここまでの数知れぬ大きなおかげをいただけてきたことは、感謝させて頂く以外にはありません。そこで今から転地したり、建物を建てかえることに迷わず、その中身の真の信心による人助けのご用に邁進させていただきたいと願うのです。

金光教祖様が親神様から願われ指し示して下されたように、世界の人々が、戦争はなく、我情、我欲に流されず、お互いに、あいよかけよで立ちゆく世界を築き、世の人々が助け合い、日々をありがたく、面白く、うれしく、楽しく、幸せな家庭が営める世界になるよう、皆様とともに祈願させていただきます。



秋季霊祭のご祭典後、敬老のお祝をしました。

(9月23日)

「よりによって」は「^よ選りに^よ選って」

在籍教師 鍵山有久子

8月24日の月例霊祭では、私が祭員の御用をさせていただきました。というのも、本来その役を担うはずだった若先生（夫）が、3日前から38度の熱を出して寝込んでしまったからです。

21日の夕方、若先生から「熱が出た」と聞いたとき、正直「よりによって、なんで今!？」と思いました。というのも、翌週には私の御用先である放送センターで2つの会議があり、どちらも私が司会を担当する予定だったからです。休むと周囲にも迷惑がかかってしまいます。そこで、感染を防ぐため若先生を隔離しましたが、手やドアの消毒、食事の運搬など、地味に体力を消耗しました。さらに、会議の準備として資料を読み、段取りを考える必要もありました。

そのうえ、教会長（父）が白内障の手術で入院中。術後すぐは視力が戻らず、退院予定は23日。そんな状況で、24日の霊祭はどうなるのかと不安が募り、「よりによって、なんで今熱を出すの」と責める気持ちと焦りが入り混じっていました。

そんなとき、友だちからグループLINEにメッセージが届きました。そこには「選りに選って（よりによって）は、神さまによって」という言葉が書かれていました。これは、静岡教会長・岩崎道與先生の著書『「神人物語」にふれる』にある言葉です。岩崎先生は令和2年から6年まで教務総長を務められ、ご本部広前の祭典で教話された内容がおさめられています。

その中で紹介されているエピソードが印象的です。岩崎先生のお母様が肺がんで入院し、抗がん剤治療後に急遽退院となったのが、年に一度のバザーの前日。介護が必要なお母様を前に、「えー、よりによって今日なの」と思われたそうです。しかし、バザー準備で忙しい奥様に代わって先生が介護を担ったことで、介護のあり方が変わり、後の繰り合わせにもつながりました。

この経験は、6年後に倒れて入院し、介護施設に入っていたお父様を教会に迎える際にも生かされました。最期の時をお広前で過ごしてほしいというのが家族の希望でしたが、その時は、ご大祭の2日前という「^よ選りに^よ選って」のタイミングでしたが、共にご大祭の日を迎えることができたからこそ、お父様は多くのご信者さんとお別れができ、まさに「神様の選りに選って」だったのです。岩崎先生はこう記されています

「こうしたことを振り返ってみますと、神様は、まず母の時に「選りに選って」と思ってしまうその出来事にこそ、人間の計らいを越えた神様の段取りがあるということを見せてくださいました。そして、この段取りに合わせることで、差し支えないようなお繰り合わせが頂けるという経験をさせていただきました。その経験が、父の時の「選りに選って」という思いがけない出来事に生きてきました。

こうしたことから、こちらの段取りから外れる「選りに選って」という思いがけない出来事こそが、神様の段取りそのものであったことを、はっきりと分かってされました。「選りに選って」は「神様によって」だったのです」

この言葉に私はにわかに元気が出てきました。友だちがこのタイミングでその言葉を送ってくれたことも、神様がついてくださっているとしか思えませんでした。

そして父は、予定より1日早い22日に退院。これは教会長自身が早く帰りたかったからですが、結果的にとても良い繰り合わせとなりました。母は心配して、私に若先生の代わりに祭員を、さらに教会長の代わりに祭詞の奏上もお願いしたいと言っていました。祭詞は初めてだったので不安もありましたが、「神様がお計らいくださるだろう」と思っていたところ、教会長が「わしが祭詞を奏上させていただきますよ」と言ってくれました。

24日、無事に霊祭を仕え、翌日には元気に会議にも出席できました。若先生も27日には全快し、翌日の会議では、帰りが遅くなった私の代わりに、若先生が子どもを連れて食事に行ってくれて助かりました。

こうして振り返ると、すべてが神様の段取りの中で繰り合わされていたことが分かります。

今回のことで私は、「よりによって」と思うような時こそ、神様が段取りをつけてくださっているのだと実感しました。そう考えると、「むり、むり！」と言いたくなることも、まずは神様にお願いしてみようと思えるようになりました。

実際、ここ2年ほど、風邪や他教会のご大祭で若先生が不在の時に、「むり～」と言いながらも祭式を復習して月例祭の祭員を務めてきた経験が、今年のご本部教団独立記念祭での祭員の御用に生かされました。

「むり～」と「なんでよりによって今なん」が口癖だった私ですが、これからは思いがけない出来事にも、「神様が選りに選ってくださったこと」と受け止めて、ワクワクしながら楽しく取り組んでいきたいと願っています。



月例霊祭日に、祥月命日の御霊様もお呼び出しして
ご慰霊させていただきます。

ご都合お繰り合わせをいただかれ、ご参拝下さい。
(11月24日・12月21日ともに午前10時30分より)

さわかぜは、韃教会ホームページからもお読みいただけます。



金光教うつほ教会

検索

<https://utubo.konko.info/>

10月26日(日) 午前10時30分より
生神金光大神大祭奉行

祭典後説教：講題「ありがたく頂く心」

講師 金光教鶴町教会長 藤坂金生先生

11月

1日(土) 月例祭執行 午前10時30分

2日(日) うりわり墓参 午前7時

8日(土) 御本部月参拝 午前6時出発

9日(日) 月例祭執行 午前10時30分

10日(月) 大阪教会生神金光大神大祭
午後2時

21日(金) 信徒共励会 午前10時

23日(日) 堺大浜教会生神金光大神大祭
午後2時

24日(月) 月例霊祭執行 午前10時30分

祭典後教話：金光教平野教会長 宮下寿美先生

講題「謙虚な信心姿勢」



12月

1日(月) 月例祭並びに

初代鞠教会長和田安兵衛先生例年祭執行 午前10時30分



晴天の中、秋の合同墓前祭が、瓜破霊園において仕えられました。(9月28日)